

なんケア通信



第28回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和2年12月4日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：32名(介護事業所関係者 17名、地域包括支援センター 5名、福祉用具事業所 3名、医療機関関係者 7名)



演 題

『 症例に学ぶ！創傷・褥瘡ケア 』

御野場病院 特定行為看護師(創傷管理) 看護主任 渡邊誠也 氏

『 圧から考えるポジショニング 』

御野場病院 理学療法士 澁谷貴史 氏



今年最後のなんケアの会(第28回)を令和2年12月4日(金)に開催致しました。今回は32名の地域の多職種の皆様と共に「症例に学ぶ！創傷・褥瘡ケア」「圧から考えるポジショニング」の2テーマについて理解を深めました。

当院の看護主任である渡邊誠也氏からは、症例写真の解説・処置の方法などを中心に講演していただきました。渡邊さんは、特定行為看護師(特定行為区分:創傷管理関連)として当院の褥瘡・創傷ケア管理の推進役を担っています。その活動を基に、ケアに必要な知識と技術を大変分かりやすく説明していただきました。褥瘡・創傷ケアの重要なポイントは、創部の状態の正しい評価と適切な処置の実施、ポジショニング、栄養管理の3つが基本だということでした。創部感染を予防し治癒を促進するために、壊死組織や水泡による「蓋」を除去したり、血液などを生理食塩水で洗浄することも重要であることがわかりました。

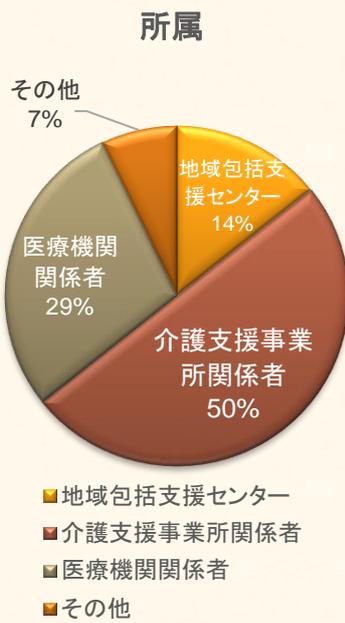
続いて、理学療法士の澁谷貴史氏から、ポジショニングの基礎知識と体圧分散ケアの具体的な方法について講演していただきました。圧迫・ずれ・摩擦(外力)と褥瘡発生リスクのメカニズムを知り、ポジショニングの重要性を理解することができました。関節拘縮や筋緊張の高い方に対してクッションなどを活用することが効果的ですが、やみくもに当てても効果が得られず、かえって体圧の増加を招く場合もあるということがわかりました。また、ポジショニングの最後に必ず姿勢を整え、「楽そうか、寝位置はどうか、圧はどうか」を目と手で再確認することが大切であることも教えていただきました。お二人の講演から、褥瘡の予防・ケアは根拠に基づいて、適切に実施することが重要であるということを強く感じました。在宅での褥瘡対策においては、私達多職種のケア力や家族への指導力が大きく影響するものと考えます。本日の講演で得た正しい知識をどんどん現場で実践し、より効果的なケアを提供していきたいと思えます。

今年はコロナに始まりコロナで終わる1年でした。新型コロナウイルスの脅威の中、感染対策に試行錯誤しながら地域での活動に取り組んでいる状況ですが、地域の皆様が安心安全に暮らすことができるよう、今こそこれまで培い強化してきた医療・介護・福祉の連携の底力を発揮すべき時といえるのではないのでしょうか。来年もなんケアの会は、地域の多職種の「顔の見える関係」の交流の場として、より一層地域連携を深めることができるよう努めて参りたいと思えます。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

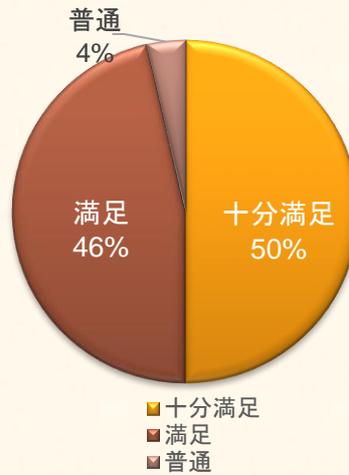
次回のなんケアの会は令和3年2月5日(金)を予定しております。新型コロナウイルス感染症の動向により、自粛・中止させていただく可能性もございますので、あらかじめご了承ください。変更、詳細につきましては今後ホームページにて順次お知らせ致します。



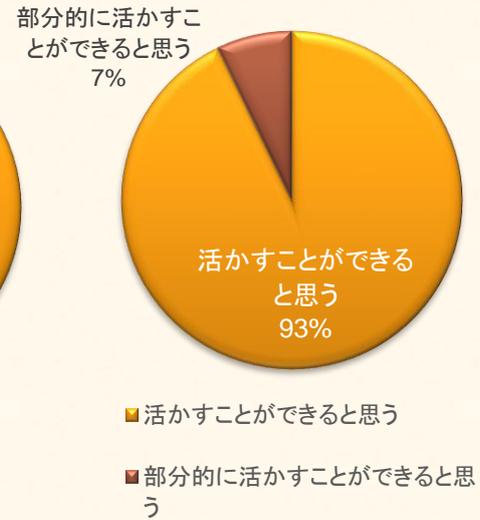
アンケートの
集計結果



なんケアの会に参加して いかがでしたか？



今後、地域での活動に活かす ことができそうですか？



回収率: 87.5% (アンケート配布: 32名、回収: 28名)



会場の様子と 皆様からの ご意見・ご感想



会場の様子
ソーシャルディスタンスを確保してます



当院の理事長



司会者と書記



特定行為できる看護師さんがいらっしゃること初めて知りました。在宅(訪問看護)でも、そういった行為ができる看護師がいる事業所があると心強いと感じました。

地域包括支援センター

福祉用具の選定にとっても参考になった。直接利用者の介護をするわけではないが、アドバイスができるので、ポジショニングの講話はとても良かった。特に、寝たきりの方がなぜそのような姿勢でいるのか理由がわかった。

介護支援事業所関係者

ポジショニングのご講義は、とても復習になりました。困った時はご相談させて下さい。

グループホーム

次回開催の お知らせ

開催日時: 令和3年2月5日(金) 18:00~19:15
会場: 南部市民サービスセンター「なんぴあ」2階 地域文化ホール

